

目的 前報において、染料染色布上に黴を培養し、黴による変褪色の現象と肉眼観察した。その結果直接、酸性、塩基性染料染色布において著しい脱色更には黴の分泌物による着色現象が認められたので、黴汚染染色布の色素を抽出し、黴の分泌物による染料色素への影響を検討した。更にこの実験で用いた有機溶剤その他を用いて黴汚染白布の色素除去を試みた。

方法 直接染料で染色した綿布を  $1\text{cm} \times 3\text{cm}$  に裁断し、 $5\text{ml}$  の N.N. dimethylformamide に 2~6 時間浸漬。振盪して色素を抽出した。その液を分光比色計により測色し、更に黴汚染白布を塩酸酸性にした後 N.N. dimethylformamide, Tetrachloroethylene, Chloroform + Methylalcohol を用いて黴を除去した。

結果 黴の代謝物による褪色、菌体の有色物質による汚染の現象がみられた外、菌体の色素については微量の色素を検索出来なかったが、11種の染料にも黴による分解が観察された。有機溶剤による除去では Fusarium の赤色色素は分解されたが、定気酸除去は困難であった。